

NCGG SEMINAR

生体多光子励起イメージングで見る
骨組織内部の世界：骨研究の新展開

石井 優先生

大阪大学免疫学フロンティア研究センター・
細胞動態学 教授

生体内で最も硬質の組織である骨を破壊・吸収することのできる唯一の細胞種である破骨細胞は、これまでに分化・成熟するために必須のサイトカインや、シグナル伝達・転写制御などについて重要な基礎的研究が数多くなされてきたが、破骨細胞の*in vivo*での動態・機能については依然として謎が多かった。

演者は最近、多光子励起顕微鏡を駆使した特殊な観察系を立ち上げることにより、骨組織・骨髓腔の内部を生きたままの状態で「非破壊検査」することに世界に先駆けて成功した。本講演では、骨組織のライブイメージングの原理と方法論を概説するとともに、骨の内部を見ることができるようになって何が新たに分かったのか、特に破骨細胞の動態と機能・および免疫細胞によるその制御機構にフォーカスを当てて概説する。

平成24年3月30日午後4時～5時
第二研究所棟 2F会議室

連絡先
運動器疾患研究部
池田（内線5501）